

外来診察

脳と心のドック

予約制

認知症・うつ病の鑑別診断

アルツハイマー型認知症・血管性認知症・うつ病・双極性障害・統合失調症など

外来診察のひとつとして鑑別診断を行います。
保険適用

物忘れの原因は、けして認知症のみとは限りません。

- 最近、ものをよく忘れるようになり「私は呆けているのではないか」と感じる高齢者ご本人やご家族の方。それは認知症（呆け）かも知れませんが、実はうつ病でも似た状態が現れます。
- うつ病などは殆どの場合お薬で改善できます。その鑑別を行うのがこのドックの主たる目的です。当院では同様の症例を数多く経験しております。

078-942-1021 明石土山病院「脳と心のドック」受付まで
平日 午前9:00～午後4:00（土曜 11:30まで）

診察費用 ※検査料・診察費を含む
初診の方の窓口負担金の例

1割負担 75歳以降

約 2,450 円

2割負担 70～74歳

約 4,900 円

3割負担 6～69歳

約 7,300 円

※窓口での自己負担額は所得など条件により異なります。ご自身の医療保険の負担率をご確認下さい。

3種類の検査

- 光トポグラフィ検査** ※この検査での費用は頂きません

脳の動きを目で見える形でグラフ化し、うつ病や認知症等に現れる特有の波形を見ます。

測定する装置のついた帽子を被って行動した際の、脳内の血流を測定します。髪や頭皮に手を加えたり、また測定中に痛みを伴うような検査ではございません。

光トポグラフィ装置 ▶ 
- MRI検査**

磁気を利用して頭部の断面図を撮影し、脳の腫瘍・萎縮などを画像から確認します。

エックス線を利用するレントゲンと異なり磁気を利用します。放射線被曝の心配もなく、より身体に負担も少なく済みます。開放型ですので圧迫感がなく、閉鎖空間が苦手な方でも検査して頂けます。

MRI装置 ▶ 
- 心理テスト**

臨床心理士によるテストを行います。

機器だけではなく、医師による診察時以外での検査にも実際に臨床心理士が向かい合います。

※外来診察時に検査を行います。検査の結果につきましては後日郵送にてご送付させて頂きます。
※診察の内容により、必要がないと医師が判断した検査は行わない場合がございます。



医療法人社団 正仁会

明石土山病院
介護老人保健施設希望
つちやま訪問看護ステーション
宿泊型自立訓練事業所みどり寮
共同生活援助事業所グループホームノア

基本理念

『人間愛に満ちた医療と』

愛情こもる看護・介護』

〒974-0074
兵庫県明石市魚住町清水2744-30
TEL: 078-942-1021
FAX: 078-941-1573
E-Mail: info@athp.jp

ホームページも是非ご覧下さい

- PC・タブレット・スマートフォン
<http://www.athp.jp/>
- 携帯用 (i-mode)
<http://www.athp.jp/i/>



MIDORI*

季刊誌

令和3年 秋号

65周年を迎えて

理事長 太田 正幸

2021年11月1日、医療法人社団正仁会の基となりました明石土山病院が65年の誕生日を迎えることができました。

去年、来年はホテルで豪華に祝いたいと申ししておりましたが、この度、デルタ株が猛威を振るい兵庫県の精神科病院でワクチンを2回接種した方たちが新型コロナウイルスに感染したという事例がありました。重症化はしなかったであろうとは思いますが、もし、ホテルで開催し、そのような事例が当法人において発生した場合は、患者様・職員の皆様に大変なご迷惑をお掛けすることになってしまいます。65年という大きな記念ではありますが、会議室での限定開催とさせて頂きました。振りかえってみますと、大変多くの事がありました。何よりも65年という日を迎えられたのは、ひとえに地域の皆様、関係行政の皆様、職員の皆様のおかげと心より感謝しております。本当にありがとうございました。



新型コロナウイルスについて③

院長 財田 一也

本文を執筆している10月21日現在、兵庫、大阪、京都、滋賀を含む19都道府県に発令されていた緊急事態宣言、8県に発令されていたまん延防止等重点措置は解除されています。国民の生命や健康に著しく重大な被害を与える恐れ、全国的かつ急速なまん延により国民生活や経済に甚大な影響を及ぼす恐れは軽減・消失したと政府が判断しての対応です。8月末のピーク時は1日あたり59人確認された明石市の感染者数は、10月1日以降1日当たり5人から0人に減少しています。

感染拡大の主な起点とされる飲食の場面や遊戯施設に対する対策は、10月22日より感染対策の徹底を行いながらも段階的に緩和されていきます。人の流れの抑制や検査体制の強化などの感染防止対策は今後も政府主導で継続されますが、経済活動との両輪を考えるとやむを得ない措置であろうかと思えます。しかし我々医療従事者は感染しないのはもちろん、院内に持ち込まないということが重要であることはこれまで度々お話しした通りです。そのためには(1)外出・移動の自粛、(2)イベント等の開催・参加は可能な限りひかえ、やむを得ない場合は「三つの密」を避ける、(3)家族も含めて体調の異変に気づいたら迷わずPCR検査を行う、以上3点の徹底を今後も引き続きお願いします。

幸い当院の入院患者様、入所者様、施設利用者様の感染は確認されていません。これはひとえに職員皆様の日頃の努力のおかげであろうと大変感謝しております。引き続き前述の感染防止対策に加え、ワクチン接種も協力下さいますようお願いいたします。ワクチン接種効果により60歳以上の高齢者の感染は著しく減少していますが、その反面20歳代、10歳代、10歳未満の感染が著増し、学校や保育所でクラスターが発生するなど今後も注意が必要です。お子様をお持ちのご家庭は心配であろうと思いますが、何らかの症状があればご自身も含めて家族のPCR検査をぜひ行ってください。

現場スタッフの皆様はメディアの一部過剰とも言える報道や感染拡大に対する不安と恐怖にさらされ、大きなストレスを感じておられると思います。我々医療従事者は次々と変異する見えない敵と戦わねばならず、第5波は終息しましたが12月末には第6波のピークが

来ると予想されています。身体的な不調の際のPCR検査体制は整えていますが、現場スタッフのメンタルヘルス対応が今後の課題と考えています。食欲がない、寝られない、気分が乗らない、興味や関心がない、何をするにもおっくうである、なんとなく悲しい、と感じ日常生活に支障のあるかたは先ずは職場の上司に相談してください。



看護部 研修会報告



令和3年10月22日 医療安全管理研修会と医療ガス安全管理研修会が行われました。医療安全においては与薬・誤薬に関する医療事故防止についてがテーマでした。「勘違い」、「思い違い」、「見間違い」、「取り違え」、「聞き違い」など多種多様なミスがあります。それぞれのミスの特性を分析し確認体制の見直しやチェック方法の変更を行い、ミスの軽減、業務の効率化に役立てて参りたいと思います。

